

アカデミー 五年史



004 目次

006 「つくる」の章

010 「つながる」の章

014 「つづいていく」の章

十五年史
アメブロ

記事

- 018 コミアカの草創期 — ぎんなんまん
- 021 コミアカの刊行物
カタログ、プレス、合同誌
— Ajin、桜、ていま、rtateshina
- 024 『こみあ力』ができるまで — Ajin
- 026 コミアカ合宿 — 芙蓉、桜
- 029 UNIKET — 流雲
- 034 Callアニソンクラブイベントについて
— sourmilk
- 037 2020年のコミックアカデミー
(または新型コロナウイルス感染症と
東京大学と同人即売会) — 竹麻呂
- 055 コミックアカデミーの一番短い一年
2021年の新型コロナウイルス感染症と
東京大学と同人即売会 — 竹麻呂
- 072 コロナ後のコミアカ — ちさとし
- 075 静的サイトジェネレーターによる
コミアカHPの再構築 — ふあぽん
- 080 コミアカ現役スタッフ座談会

資料編

- 094 コミックアカデミー01 カタログ
- 098 コミックアカデミーの理念
これまでの活動、その中で目指してきたもの
— ばつふあ
初出：こみあ力
- 099 データで振り返るコミックアカデミーと
学園祭併催型同人誌即売会 — 49
初出：CA10記念誌
- 103 コミアカ設立者にインタビュー！！
コミアカができるまで — Ajin
初出：CA10記念誌
- 107 数字で見る コミックアカデミーこれまでの歩み
— かえで
初出：CA10記念誌
- 108 コミアカサークル申込システムの歴史と近況
— sourmilk
初出：CA17合同誌
- 113 各回開催概要



comic academy chronology

「つくる」 の章

2

はじまりは、1人の大学院生の思いつきでした。「文化祭で同人誌即売会を開いたらどうなるのか」そこから急ピッチでの仲間集め、企画書づくり、あいさつ回り、HP立ち上げ……

2010年の駒場祭で開催された同人誌即売会「コミックアカデミー」は、初期メンバーの熱量と推進力のもと、参加サークル29を集め、成功裏に幕を下ろしました。

当初は1回で終わるかもしれないかったコミアカ。CA01の当日の打ち上げで、コミアカをCA02以降も引き継いで続けていくメンバーが名乗りを上げました。

CA02からは、コミックアカデミーの理念「つくる、つながる、つづいていく」が制定され、合同誌や委託販売のほか、学友会加入など、現在の即売会やサークルとしての体制が整備されていきました。

やがてスタッフ参加の人数も増えていき、コスプレ

広場や学内サークルとの交流会、スタッフの懇親を目的としたコミアカ合宿、公式キャラクター「カコ」「アケ」の発表など、新たな企画も続々と生まれました。また、大学院生が中心となって立ち上げたサークルが世代交代を持続可能な形で進められるよう、新歓への注力や、駒場生執行代の導入なども早い段階で行われました。

CA05の終了後、卒業に伴い多くのスタッフが抜けた後も、この時期に組織や活動の根幹をしっかりと形作ってきたことが奏功し、コミアカ実行委員会が一つのサークルとして自転することができます。

初期メンバーが熱量をもって立ち上げたコミアカが、サークルとしての形を得て、さまざまな企画が花開き、やがて今に至るまでの基礎を「つくる」。コミアカの原点として大切な5年間です。

コミアカ構想 公開される

2010.05.18



01代表・朝永はむのブログにて、東京大学の学園祭で同人誌即売会を開催する構想が公開された。現在まで続くコミアカの歴史の出発点である。

CA01

2010.11.21

第61回駒場祭

記念すべき第1回の即売会。駒場祭は3日間あるが、日曜日1日のみの開催であった。事前の想定を大きく上回る来場者に恵まれ、成功裡に幕を閉じた。サークル参加費は無料であり、運営はカンパで賄われた。終了後の打ち上げで、第2回を五月祭で開催することが決まった。



公式Twitter 開設

2010.12.06

@comiacaが取得され、情報発信が開始された。初ツイートは「これはコミックアカデミー公式アカウントです！ コミックアカデミーに関する情報をパンチ！ つぶやいていきますのでよろしくお願いします！！」だった。

010 2011

2

コミアカ 学友会に登録

2011.01.01

物品援助の受領や将来的な部室獲得のために、東京大学教養学部学友会に登録の届出がなされた。サークルとしてのコミックアカデミー実行委員会のはじまりと言える。



CA02

2011.05.28-29

第84回五月祭

五月祭での初開催となったコミアカ。スタッフの増員やサークルとしての体制構築が行われ、委託参加や合同誌の発行といった現在につながる取り組みが形作られていった。



CA03

2011.11.26-27

第62回駒場祭

前回の駒場祭から1日増えた2日間開催となった。コミアカ本体とは別企画として「コスプレ広場」が設置されたほか、他大学の学内同人誌即売会のスタッフを招いた座談会も開催。

2日目には開会前の待機列ができるなど盛況だった。

コミアカ交流会 初開催

2012.02.14

学内の同人創作者が交流する場として、駒場の第二食堂を貸し切ってパーティーを開催した。名刺交換や作品の展示、プレゼント抽選会などの企画が実施された。その後も半年に一回程度のペースで2015年まで継続した。



CA04

2012.05.19-20

第85回五月祭

初めて新歓に参加する、即売会とは異なる交流手段として交流会を立ち上げるなど、サークルとして新しい取り組みが多数行われた年。即売会では、合同誌に加えてコミアカの活動を紹介する同人誌として『こみあ力（ぢから）』が創刊され、CA03のアフターレポートや座談会の書き起こし、東大生同人作家へのインタビューなどが掲載された。



公式キャラクター お披露目

2012.10.01

「C3プロジェクト」の成果として生まれた、コミアカのオリジナルキャラクター「カコ」と「アケ」がHPでお披露目された。二人は「東大で同人活動を始めた女の子」として設定され、プロフィールや二人を題材とした作品を募集する企画も実施された。

2012 2013 2

CA05

2012.11.24~25

第63回駒場祭

1日目は「コミアカ勉強会」と称してコミアカ内外の講師が同人誌の作り方や創作のノウハウを講演する企画を実施した。コスプレ広場が会場外に開設される形から即売会終了後に会場内に開設される形に変更された。なお、2012年7月の飲酒による死亡事故を受け、この回（第63回）から駒場祭は全面禁酒となった。



CA06

2013.05.18-19

第86回五月祭

スタッフの陣容が大きく変わりながらも、交流会や合宿などサークルとしての取り組みを継続。コミアカスタッフ自身の創作やコスプレ活動なども精力的に行われ、コミアカの活力を維持していくことに主眼が置かれた。



CA07

2013.11.22~23
第64回駒場祭

1日目は「同人講演会」として「色彩・デザイン」「漫画・イラスト」「イベント・即売会」の3つのテーマについて講演を実施。この回からコスプレ広場の運営を終了。スタッフが減少気味だったことやコスプレだけの参加者がそこまで多くなかったことから、リソースを考慮して見直しの対象となった。



UNIKET 即売会開催

2014.03.02

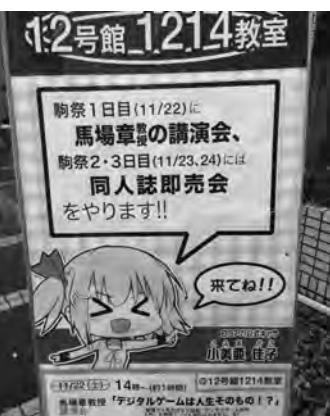
東京大学・電気通信大学・早稲田大学・総合学園ヒューマンアカデミー東京校の学内同人誌即売会を運営する4団体による同人誌即売会「UNIKET即売会」が東京卸センターで開催された。サークル参加は27サークルであった。

014

CA08

2014.05.17~18
第87回五月祭

東京大学名鉄研究会のプラウザゲーム「名鉄これくしょん」などをお目当てに列が形成され、「最後尾はこちらではありません」札が作られる事態に。コミアカ史上では3年ぶりとなる会場外にわたる列形成となった。



CA09

2014.11.23~24
第65回駒場祭

1日目はゲーム研究で名高い馬場章先生を迎えて講演会を実施。コミアカとしては初めて東大の先生をお招きしたイベントで、教室が満杯になるほどの大盛況だった。立ち見が出るほどの大人気の授業を小一時間に濃縮した講演会は、参加者の皆様の熱意もあって非常に盛り上がった。

コミアカの はじまり

2010年の五月祭は5月29日（土）・30日（日）に開催された。そのパンフレットを受け取った人々の中に当時理学系研究科物理学専攻の学生であった、朝永はむ（以下はむ・敬称略）がいた。2008年頃からコミケなどの即売会にサークル参加していたはむは、パンフレットに「文芸・同人誌販売会」を発見する。現在も続く文芸系サークルの合同即売会の系譜であるが、はむはそこで、学園祭内で同人誌即売会を開催することを思い立つ。

5月18日時点ではむとげそがこの話題で盛り上がり、どのようなイベントとしていくのか、方向性が決められていった。名称「コミックアカデミー」と略称「コミアカ」は既に決まっていた。

当時のはむのブログには以下のように記されている。

コミアカの 草創期 ぎなんなんまん

「即売会を開けばすごく面白そう！！！だなど。

大学生は日本でも指折りの人数ですし、やってる人も人づてに聞く大変でかなりいるみたいです。

イベント出たこと無い方でも、全然大丈夫な感じにして、かつ、会場はちゃんと机並べて設置。

カタログもがんばって作るwww

最初は1つの講義室とかでやる。

日ごろ、絶対にイベントに行かない人がこれる！

（文化祭に参加する人がノリできててくれるはず

そして、同人イベントってこんなのかーてのを知ってもらう！

一番の目的は、サークルとして集まった作家さんたちとの、交流ですね。」（原文ママ）

前後して、はむはニコ生においてもコミアカ構想について配信、議論を交わしていたようである。

最初期には、学内の既存のサークルとの接続が課題であった。また、参加サークル数は野心的な目標として30サークルとしており、「学内に同人作家がそんなにいるわけない」と考えていたようである。

コミアカ 実現に向けて

2010年5月30日にはメールアドレスを取得、6月13日には東方素芸祭に一般参加し、現実的にどうしていくのか、検討を進めた。6月にはかっぱ巻きが興味を持ちはむに連絡を取り共に企画を進めていくことになる。7月には駒場祭の企画代表者会議に出席し、駒場祭内の企画として出展する準備が進む。そこではむが責任者となることが決まった。同月、FC2に登録し、コミアカHPを作成する。最初期のHPの作成ははむが行っていた。その後、8月24日までに、当時から植物ホルモンの擬人化「ほるもん」の企画をされていたせみまるさんに依頼し、改装された。

Comic Academy@駒場祭



コミックアカデミー01終了後のコミアカHP

7月末には、駒場祭の企画場所割り当てなどを待たずに、目標サークル30サークルを目指して、学内の同人創作を行うサークル、22サークル程度にメールを送付して参加を呼びかけたほか、HP上で申込ページを公開した。その結果、個人参加含めて多くの方から参加希望が集まった。最終的に10月初旬までに29

サークルに達した。また、教室割り当ても8月20日に決まり1号館104教室となった。配置可能なスペース数は30で、奇しくも目標としていたサークル数に合致することとなった。

また、既存の部活・サークルに「コミアカ」という団体を認めてもらう、すなわち、主催団体・参加サークル間で一定の信頼関係を構築するために、既存の部活・サークルの構成員にコミアカにも参画してもらうことが試みられた。このときにTwitterを通じて、かっぱ巻きが「彼を入れることは極めて重要」としたRalf(ノンリニア、ゲーム研究会に参加)を勧誘することとなった。

9月には、カタログの製作もはじまり、準備が加速していく。当時の準備は、基本的にSkype上で行われていたようだが、11月13日(土)に本郷において、顔合わせを兼ねた対面での会議も開催された。また、「次」の開催に向けた準備も始まっていく。

依頼時期は不明だが、キービジュアルはくろば・U(前方不注意)に依頼。ロゴも作成いただいた様子である。

コミアカ01の開催

2010年11月21日(日)10～17時に、駒場祭1日に「コミックアカデミー01@駒場祭」が開催された。104教室の黒板を落書きコーナーとし、教室の3つの壁・窓沿いに「駒1～駒15」、教室の中心に「場1～場14」の合計29サークルが配置された。事前には来場者をここまで多く見積もっておらず、目標は500人としてカタログも同数用意されていたが、午前中には完



コミックアカデミー01会場の様子

売し、午後2時半には来場者1000人を突破、最終的には1441人来場した。

前日準備では現在とあまり変わらず、ポスター貼り、教室の清掃と机の配置が行われた。

終了後には、参加サークルと運営による打ち上げが行われ、40人以上が参加した。また、このときくろばのポスターをめぐってポスターじゃんけんが行われ、Ralfがゲットしたようである。

その場で、第2回を五月祭で開催することが決まった。

02に向けて

2010年11月24日付けで代表者の挨拶がコミアカHPに掲載され、多様な来場者、サークル間の交流の実現が主として言及された。

2010年11月28日（土）にコミックアカデミー01反省会が開催され、引継ぎも行われた。第2回の代表はあげ、副代表はいんそうとなった。

準備段階では、継続的な即売会開催に向けた仕組みや内容が整備されていくこととなった。具体的には、内部でDropboxやWikiの整備が進められ、あげにより申込システムが作成された。Twitterのアカウント@comiacaも取得され現在のコミアカに近い道具が準備されていく。部室獲得への道を開くこととなる学友会への加盟申請や、資金管理用の口座開設、文房具等の備品整備も行われた。

即売会内の運営企画としては、合同誌の発行や委託販売の開始など、即売会としてのコミアカの特徴的な取り組みが形作られていった。

コミアカの進むべき方向についても、「学内の創作活動の活性化」「初心者層・女性層（F層）の開拓」「イベント前・後の交流」があげによって示された。

既存の部活・サークルとの関連では、当時から勢いがあったまるきゅうProjectのばっぷあを勧誘、そのほかにも多くの人を勧誘した。

また、コミアカの理念「つくる、つながる、つづしていく」が制定されたのもCA02の時である。提案者のていまによる説明を以下に付す。

CA02の際、五月祭委員会から「企画PR動画」の募集があり、これに向けたショート広報動画を作成し

ました。

この時、動画末尾のアイキャッチ+キャッチフレーズとして、

- ・つくる（Create）
- ・つながる（Connect）
- ・つづいていく（Continue）

というのを考案したのがもとになっています。

【余談】

コミアカ = CAって Creative Activities（創作活動）の頭文字もあるなあ、からスタートして、いい感じの韻が踏めないか推敲した結果として生まれたフレーズです。

オタク活動は消費ばかりではない、ということに感動して同人活動を始めた自分なので、「Create／つくる」は是非ともアピールしたかったのを覚えています。

また、コミアカは同人誌即売会という「場」を提供する企画ですので「交流・発表」を表す言葉として「Connect／つながる」を続け、最後に、コミアカがそうした場としてずっとあり続けてほしいという願いから「Continue／つづいていく」でめました。

実は途中はかなり迷走しており、「Communicate」「Cooperate」「つむぐ」「つどう」「つちかう」「つきつめる」「つらぬく」などの没案もありました。

また一応、「つつづ」「CCC」で和英とも折句にしつつ、「つ」と「C」で見た目のデザイン上も鏡対称にし、3+3+5（音余り）の耳馴染みの良いリズムを踏めるように仕上げています。

考案者としてはこの動画限りのフレーズとして消耗されてもいいや、くらいのつもりでしたが、いつの間にか理念まで昇華され、嬉し恥ずかしです。

CA01の最初期は3人だったスタッフも、02では20人を超えて即売会準備を中心に活発に活動が行われた。コミアカ内有志でコスプレバンドを結成してステージに参加するというできごともあった。参加サークルも02では50を超えて学内の即売会というものが一定の立場を固め、継続的なイベント開催に向けた土台が形成されていった。

コミックアカデミー実行委員会は、参加サークルが同人誌を頒布する場を提供するだけでなく、団体として様々な刊行物を制作・頒布してきた。その系譜は、第1回開催時のカタログ制作から始まり、合同誌やコミアカプレスなど多様な形態へと展開していった。本稿では、現在に至るまで刊行されている合同誌を中心に、それらが辿ってきた歴史を振り返るものである。

コミアカの 刊行物

カタログ、プレス、合同誌

Ajin
桜
ていま
rtateshina



CA02で刊行された2種類の合同誌

CA01では、サークルリストや注意事項をまとめた8ページのカタログが作成され、500部が無償頒布された。続くCA02において、参加者から原稿を募る合同誌が初めて刊行される。このときは「ごった煮合同誌」と「学術合同誌」の2種類が制作された。CA02のカタログには以下のように説明されている。

合同誌とは、複数のサークルや、複数のクリエイターたちが集まって共同で作った同人誌の事です。あるテーマやジャンル、ルールを一つ決めて、それに沿って多数の人たちが思い思いに書く／描くのが特徴です。

今回コミアカ02では、東大生クリエイター有志を集め、「ごった煮合同誌」と「学術合同誌」を制作いたしました。

「ごった煮合同誌」は「テーマ無しというテーマ」で、一言で何でもありな合同誌です。ジャンル指定は無く、二次創作もOKですし、表現方法にも指定は無く、漫画や小説はもちろん、一枚イラストもあります。

「学術合同誌」は「学問・学術や研究テーマに関連しそうなこと」をテーマとし、一つの「読み物」を制作しました。硬派な学問に関する文章はもちろん、「萌える〇〇学」や「『魔法少女まどか☆マギカ』における

エントロピーの概念について～熱力学・統計力学的視点から～」などなど、おもしろおかしく書いた物まで内容は多岐にわたります。

是非合同誌スペースで、集結した東大生達の本に出会ってみませんか？

(CA02カタログより)

これらの合同誌企画は、コミアカが掲げる「同人活動への敷居を下げる」という理念に基づいていた。サークル参加よりも更に簡単な「イラスト1枚や文章のみでも参加できる窓口」を設けることで、創作への参加機会を広げようという意図があった。学術合同誌は「どうせなら東大生協で買える論文製本キット（のり付の背表紙と、製本用のヒーター）を使って、それっぽい見た目にしよう」という目論見のもと、ごった煮合同誌とは別の本として制作された。余談として、学術合同誌はその企画内容から執筆者が集まるかが大いに懸念され、多くのスタッフがサクラとして参加した。複数のペンネームで寄稿したスタッフもいたという。

当時のスタッフはコミアカを今後も継続するための土台を作ることを重視しており、合同誌企画も潜在的な参加者に対して広く「こんな参加方法もあるんだ」と知らしめることが目的であったが、結果的には身内の寄稿者が大半となった。また、スタッフにとっての一番の理想は「サークル参加者が増えること」であり、その結果として将来的に合同誌が縮小することもあると想定されていた。

CA03では学術合同がごった煮合同の一企画として扱われるようになり、CA04でもその形態が踏襲された。販売は順調で完売により黒字も出ていたものの、参加者が内輪に固まってしまい、「1ページから気軽に創作の世界に踏み出せる」という本来のビジョンが実現できていないという懸念が生じていた。

CA04では新たな試みとして「カタログ＆コミアカプレス こみあ力」（「こみあぢから」の表記も見られる）が刊行された。「こみあ力」はコミックアカデミー実行委員会による情報発信のための媒体として企画されたものであり、「コミアカプレス」の名称はコミックマーケット準備会による情報誌「コミケットプレス」を意識したものであろう。「こみあ力」の刊行に関する詳細は、「『こみあ力』ができるまで」を参照されたい。

なおCA04の運営会議では、合同誌、カタログ、コミアカプレスを1冊にできないかという提案がなされたが、カタログや情報発信と外部からの寄稿では内容の傾向が異なるとして実現には至らなかった。また、コミアカスタッフで合同誌を出さないかという意見もあったが、少なくとも「コミアカスタッフによる合同誌」であることを明確に謳う出版物は現在に至るまで刊行されていない（もっとも、参加者が結果としてコミアカスタッフのみになってしまった合同誌は存在する）。

CA05でも同様の2冊体制が継続された。「こみあ力」は即売会前日の駒場祭1日目に開催された「コミアカ勉強会」のテキストを兼ねていたほか、当時のキービジュアルを担当していたくろば・U先生のインタビューやコミアカの公式キャラクターを誕生させるプロジェクトであるC3プロジェクトに関する記事が掲載されている。

CA06では「こみあ力」を単独刊行することはせず、合同誌の一部とすることになったが、その後合同誌の一部としての企画も取りやめられた。「こみあ力」として掲載予定だったCA05のアフターレポートはHPで公開することとなり、その後もアフターレポートはHPのコンテンツとして定着した。

CA07ではCA05の「こみあ力」の構成を踏襲する形で、即売会前日の駒場祭1日目に開催された「同人講演会」のテキストと合同誌が1冊にまとまった形で刊行された。

CA08では合同誌1冊のみが刊行された。結果として、これが単独で刊行された合同誌としては刊行休止前最後の号となった。

CA09では合同誌が刊行されなかった。この頃、合同誌の参加者が少なく、少ない参加者のほとんどがスタッフになってしまっていることが複数のスタッフによって指摘されていた。これを受けたCA09に向けた最初の運営会議では、外部参加者の募集に注力する方針が定められたが、結局参加者を獲得することはできず、駒場祭まで約1ヶ月となった10月の会議で合同誌を刊行しないことが決定された。時を同じくして実施していたサークル参加募集には順調に申し込みが集まっていることから、HPが見られていないなど広報面での不足はないと判断された。決定にあたっては、参加者にとっても自分のサークルとしてコミアカに参

加するほうがメリットが大きいと考えられ合同誌の必要性が疑問視されること、編集者に負担が集中していることが理由として挙げられた。

CA10では単独のカタログを配布することとなり、サークル情報は会場の壁面掲示や公式HPで提供する方式に切り替わった。以後、現在に至るまでカタログ単体での配布は行われていない。

CA10では、コミアカ5周年記念としてOBOGの寄稿を募った記念誌が企画された。通常の合同誌は募集をかけたものの1件しか申し込みがなかったため、この記念誌と統合して刊行することとなった。記念誌には歴代の歩みや01代表である朝永はむへのインタビューなどが掲載され、5周年を振り返るにふさわしい内容となった。なお、掲載された唯一の寄稿は「同人誌にISBNをつける」と題されたもので、結果として1冊まるごと同人文化に関する本となった。

CA10の反省会では合同誌について「もうやらなくてもよい」という意見が出され、実際にCA11・12では合同誌は刊行されなかった。この時期はスタッフの人数減少も課題となっていたため、少ないリソースを有効に配分しようという考えがあったことは想像に難くない。

2016年のCA13において合同誌が復活した。このとき、合同誌として刊行するか「こみあ力」のようにコミアカスタッフによる本として刊行するかが議論されたが、最終的には合同誌として刊行することとなった。議論の中では、サークルの多様化により創作の需要が満たされているため参加者が集まらないとの意見もあったが、結果としてある程度の外部参加者を得ることができた。

CA14からCA19までは、毎回合同誌が継続的に刊行された。この時期に「コミアカ合同誌【西暦】【春または秋】」というタイトル、縦書き3段組みやタイトルの飾り罫といった現在まで続くスタイルが確立した。しかし同時にマンネリ化も進行し、寄稿の減少傾向によってコミアカスタッフによる合同誌という性格が再び強まることとなった。

合同誌の存廃をめぐる議論が再燃し始めた頃、新型コロナウイルス感染症の流行によりコミアカの通常開催が困難となった（この頃のコミアカの取り組みに関する詳細は「2020年のコミックアカデミー」「コミックアカデミーの一番短い一年」を参照のこと）。これ

を受けて実施されたオンライン企画「コミックアカデミー2020秋」の開催後、『コミアカ合同誌2020秋』が刊行されたが、これは即売会の開催に合わせない刊行物としてコミアカ史上初の試みであった。合同誌パートの4本の原稿はすべてスタッフによる寄稿で、「また会う日のためにコミアカができる」と題した特集ではオンライン企画のアフターレポートとコロナ対応をまとめた記事を掲載した。CA10以来の「合同誌兼、団体としてのコミアカの出版物」という形態が復活し、即売会が開催不能だったため初めてBOOTHでの頒布と電子版（PDF）の頒布も行われた。

即売会が復活したCA21以降も合同誌の刊行は続いている。CA21からは代表が巻頭言を執筆する慣習が定着した。CA22ではマンネリ打破の取り組みとしてキービジュアルのメイキング記事が掲載され、コミアカプレス的な要素が復活した。さらにCA25からは開催情報としてサークル一覧とサークル配置図を掲載するようになり、カタログ要素も復活している。これにより、CA04の頃に提案された「合同誌、カタログ、コミアカプレスを1冊にした本」が実現する可能性も浮上している。

結果として合同誌はCA13からCA26まで途切れることなく刊行され続けているものの、寄稿者数の低迷とスタッフによる寄稿ありきの体制という課題は依然として残されている。情報技術の進歩と同人誌印刷の低価格化によりサークル参加が容易になった現在、合同誌の役割と持続可能性は今後も問われ続けることになるであろう。



CA17で刊行された合同誌

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による影響は社会の各分野に及んだが、コミックアカデミーも例外ではなく、例年5月・11月の学園祭の機会に開催している同人誌即売会は、2020年には1回も開催できないという事態となった。本稿は、この間のコミックアカデミー実行委員会の活動について記録を残すことを目的とするものである。また、背景情報として、東京大学及び同人即売会に関する主要な動きもあわせて記すものである。

Disclaimer

筆者はコミックアカデミー実行委員会の構成員であるが、本稿はコミックアカデミー実行委員会として執筆したものではなく、その立場を反映するものではない。事実関係については記述に万全を期すよう努めたが、本文中に含まれる誤りについては全面的に筆者の責の負うところである。また、本文中の意見や評価に係る記述は、部分的にコミックアカデミー実行委員会内部の議論の影響を踏まえて形成されている可能性は否定できないが、あくまで筆者の個人的な見解として記すものである。

前提： コミック アカデミーの 平時の活動

前提として、2019年時点のコミックアカデミー (コミアカ) の平時の活動について確認しておく。コミアカは東大の学園祭で開催される「東大生オンリー」同人誌即売会で、例年、5月に本郷キャンパスで行われる五月祭と11月に駒場キャンパスで行われる駒場祭における年2回の開催となっている。また、コミアカの主催団体は東大の学生からなるサークルであるコミックアカデミー実行委員会であり、コミアカの開催のほか、3月・4月のシーズンを中心とした新歓活動、

『コミアカ合同誌2020秋』より再録

2020年の コミック アカデミー

(または新型コロナウイルス感染症と
東京大学と同人即売会)

竹麻呂

10月頃に駒場キャンパス内の学生会館で行っていた「秋の創作体験会」など、同人誌即売会以外の活動も行っている。特に新歓活動について詳述すると、3月末ないし4月初に行われる「サークルオリエンテーション」への参加と、4月中旬頃に生協食堂を貸し切り東大の同人創作系サークルを集めて行う「同人創作系サークル合同新歓」の主催が2本柱で、これに加え個別新歓を行っている。

コミックアカデミー実行委員会は東大のサークルであり、開催するイベントも東京大学の学内で行うものであることから、必然的に東京大学のサークルの活動の場の枠組みと関連が深い。東京大学のサークルに関する制度は、複数のいわゆる「学生自治団体」によって形作られており、新歓に関しては「教養学部オリエンテーション委員会」、学園祭に関しては「五月祭常任委員会」「駒場祭委員会」が全体の運営を行っている。

したがって、以下で述べる新型コロナウイルス感染症に関するコミックアカデミー実行委員会の対応についても、これら学生自治団体の対応、ひいてはその背景として東京大学当局の対応が重要な判断要素となっていることは念頭に置かれたい。

2月中旬まで： ことのはじまり

2019年末頃からTwitterでちらほらと中国・武漢で異常な事態が生じているという情報は入っていた。日本では、最初の感染者確認が公表されたのが2020年1月16日^[1]、指定感染症に指定されたのが1月28日（政令公布日）^[2]であった。2月上旬には、新型コロナウイルス感染症が蔓延したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が日本に入港し連日ニュースを騒がせた。

同人即売会関係の動きとしては、2月9日のCOMITIA131（記憶している限りでは、この規模の即売会としては感染拡大前最後に開催されたものとなった）では、欠席表明するサークルが相次ぎ、影響の現れを感じさせた（後にコミティア実行委員会が公表しているところによれば、一般参加者数が「3割減」だったという^[3]）。2月17日には、2月29日・3月1日に開催予定だった同人即売会「技術書典」の中止と「技

術書典 応援祭」としての「オンライン開催への変更」が発表され^[4]、この後相次ぐことになる同人誌即売会の中止・延期の皮切りとなった。発表文を読む限り、「当日スタッフの確保の見通しが立たなくな」ったことが主な要因で、イベントの性質上、スタッフにIT企業勤務者が多かったことも影響したと推察される。一方、この時点では開催予定を維持するとの判断を公表した即売会も複数見られた（一例として、3月22日開催予定だった令和二年（第十七回）博麗神社例大祭（2月19日公表）^[5]、3月1日開催されたM3-2020春（2月19日公表）^[6]、3月8日開催予定だったサンシャインクリエイション2020 Spring（2月19日公表）^[7]）。

東京大学では、留学生に關係する対応などはあったが、大学での活動全般への影響は生じておらず、一般的な注意喚起が行われるなどにとどまっていた。

コミックアカデミー実行委員会としては、2月8日に学生会館ロビーで会議を行ったが（会議がオンラインではないという時点で隔世の感がある）、将来的に影響が生じる可能性があることは認識しつつも、その時点では特段対応をすることなく、3月・4月の新歓や5月の五月祭で開催予定だったコミックアカデミー20の準備を進めていた。

2月下旬から 3月初旬まで： 大規模イベントの 中止と東大の対応 の本格化

2月18日に厚生労働省Twitterで「大規模イベントに関するお願い」が発出され^[8]、2月20日に加藤勝信厚生労働大臣（当時）から「イベントの開催に関する国民の皆様へのメッセージ」が発出された^[9]が、この時点では、「開催の必要性を改めて検討していただくようお願いします」とは記されていたものの、あくまで「現時点で政府として一律の自粛要請を行うものではありません」という位置付けであった。しかし、2

はじめに

コロナ禍により、コミックアカデミーは2年間にわたって対面での即売会開催を見送ることを余儀なくされた。2022年度に入り、第95回五月祭から漸く通常の即売会を開催できる運びとなった。当初は入場や企画の面で様々な制約を受けていたところから徐々に制限が取り払われていき、細かい部分は異なるものの現在では概ねコロナ以前の状態で開催できるまでになっている。本稿ではそんなコロナ明け後のコミアカの変遷を、再開のタイミングで加入した一スタッフの立場から振り返る。なお内容は当時のコミアカの総意ではなく、あくまで一個人の見解として示すものである。

コロナ後の コミアカ ちさとし

2022年度

CA20 @ 第95回五月祭

参加サークル：19（サークル参加17・委託参加2）

2年越しにようやく開催に漕ぎつけたCA20。なおこの回以降の五月祭では全て工学部8号館2階88L教室を割り当てられている。

コロナ明け最初ということもあり、様々な制約の下での開催となった。いわゆる「密」対策として人同士の間隔確保、入構者登録など特別な体制が敷かれており、コミアカ側でも仕切り板の設置をするなど一定の対策を施した。

休止中にコミアカシステムが停止されることとなり、この回から募集をGoogle フォーム経由としている。

CA21 @ 第73回駒場祭

参加サークル：22（サークル参加18・委託参加4）

例年の駒場祭のように3日間開催ではあったが、特別企画の実施が難しく3日間すべてを即売会とした。

今回も感染対策の規制が第94回五月祭から緩和されつつ残存しており、会場へ入るには事前の入構者登録が必要であった。

特例的に残留していたスタッフの離脱もあり、とにかく人手が足りない！という状況であった。

なお、同年9月1日のSlackの料金改定・フリープ

ラン内容変更により古いメッセージを読むのに有料のプランを契約する必要が出たため、コミアカならびにUT Doujinの活動拠点をDiscordへ移すことになったのもこの時期である。

2023年度

CA22 @第96回五月祭

参加サークル：24（サークル参加19・委託参加5）

この回は一般来場者の入場制限がなくなり、企画側の制約も緩和されたため、CA20と比べて来場者が大きく増えた。入構証は前回の駒場祭では紙片だったが、リストバンドに進化（?）した。

この年度はありがたいことに多くの方に加入していただき、メンバーが一気に若返った。これを受け引き継ぎを兼ねた体制の大幅見直しが行われ、現在のものに近い体制が組まれた。

CA23 @第74回駒場祭

参加サークル：28（サークル参加23・委託参加5）

この回以降はCA20移行に加入したメンバーが完全に中心となっていました。

例年同様の3日間開催。初日企画として「即興合同誌」を実施した。CA19で行ったものと同種。寄稿者は40人に及んだ。

立て看板の新製が久しぶりに行われた。

UT Doujin アドベントカレンダー

この頃になるとコロナ前を知るスタッフやコミアカ参加者もかなり数を減らしている一方、コロナ以後に創作活動を始めた新しい世代の輪が構築されていた。ここでコミアカの理念「つくる、つながる、つづいていく」をもう一度思い出し、コロナ禍を乗り越えた創作活動をさらに次の世代へ継承する・参入してもらうための取り組みが構想されることになった。その一環として、この年の12月にUT Doujin参加者から募集する形で「UT Doujin アドベントカレンダー^[1]」企画を開催し、コミアカ内外16名の方から投稿をいただいた。

2024年度

同人創作系サークル合同新歓

この年度は長らく休止していた同人創作系サークル合同新歓をコロナ明け後初めて開催。一部の参加サークルにはプレゼンも行っていただいた。

さらにカコの衣装が改めて製造され、久々のカココスがお披露目された。



2024年度の合同新歓の広報画像

CA24 @第97回五月祭

参加サークル：33（サークル参加26・委託参加7^[2]）

サークル申込人数がかなり増加したため、2スペース申込を受け入れることができず全サークル1スペースとなったほか、運営スペースであったWブロックにもサークルを配置することになった。

入場制限が撤廃されたことでコロナ以後の最多入場数（2日間で3293人）を記録した。

前月のカコに続いてアケの衣装も同様に製造され、初日（5/18）には久方ぶりとなるカコアケ合わせが行われた。

コミアカ 現役スタッフ 座談会

コミックアカデミー15周年を記念して、コミックアカデミー27にスタッフとして携わるメンバーによる座談会を開催しました。2025年のコミアカの雰囲気を感じ取っていただけますと幸いです。

ピザまん

今回は『コミックアカデミー十五年史』の企画ということなのですが、本文では我々より上の世代の人たちがいろんなことを思い起こして書いてくださっています。草創期のコミアカ1ヶタ台の話とか、「昔は合宿行ってたんだ」みたいな話とかもあって、いろんな過去の情報がまとまつた一冊になる予定なので、現在のコミアカについての情報を我々現役スタッフでもう少し濃くしていこうというのが、この会の狙いです。まずは軽く自己紹介をしていきましょうか。今回の進行を務めます、ピザまんです。CA26で代表をしたり、会計をしたりしていました。よろしくどうぞ。

ちさとし

今回の座談会は若いメンバーで構成されてるんですけど、私だけ随分な老人だなと思いながらこの場に座ってます(笑)。ちさとしです。役職としてはCA20、21~22にかけて会計をやって、24で代表をやらせていただきました。

ハイラ

ハイラといいます。CA23とCA25、駒場祭の回で代表をやってました。よろしくお願いします。

緑茶ん

緑茶んです。当日の手伝いをしたり、ちょっとビラを作ったりするくらいですけど、よろしくお願いします。

ピザまん

デザイン系を任されるすばらしい人材です。

ハイラ

まったくです。

akasa

2025年のCA26から参加のB1の

akasaです。よろしくお願ひします。

ぱらりすこまみ

同じく2025年の頭から入ってCA26から参加の、CA27は代表、一応代表なんですかね？ ほとんど提出物は前回の引き写しで、上の人たちに直してもらって提出みたいな感じですが、いちおうCA27の代表です。ぱらりすこまみと申します。よろしくお願ひします。

ピザまん

はい、一応じゃなくてちゃんと代表です(笑)。さて、自己紹介の次はどうしましょうか。コミアカに入ったきっかけの話からするか、それとも入った後の話とかやりがいみたいな話か……。

ハイラ

きっかけエピソードでそんな面白い話ある人いるんですか？(笑)

ピザまん

じゃあ、やりがいっぽい話から聞いていきますか。

コミアカに入った きっかけ・やりがい

ちさとし

じゃあ自分から行きます。きっかけとやりがいというか、自分は2年生のとき、同人活動をしている某サークルに入りました、それがきっかけでコミアカを認知して加入するに至ったんですけど。ただ当時はコロナ禍の影響でコミアカがしばらく開催できていないっていう状況で、自分より上の先輩方がすごい嘆きの声をあげてるし、自分としても「こちらから同人誌即売会を盛り上げる側に行きたいな」と思っていたので、門をたたくってことになって。同人活動・創作活動に色んな方向から関わることができるというのはコミアカのやりがいかなと思います。

ピザまん

ちさとしさんが入ったときは、オンラインでコミアカみたいな感じでした？

ちさとし

自分は1年生のときは開催されていたんですけど、その時はまだコミアカを認知してなかったですね。

ピザまん

コミアカの「コロナ前後のつなぎ方」がすごく、すごく偉大な先輩がいてですね、その先輩が上手いこと我々に継承してくださったおかげで今があるというのはすごい思ってます。

ハイラ

コロナ禍中は「カメラの前で喋るだけ」みたいな、虚無な時間もあったって聞きましたけど(笑)。一瞬そういうのがあったみたいな話を小耳にはさみました。(※)

(※)コロナ禍でのコミアカの取り組みについては、「2020年のコミックアカデミー」「コミックアカデミーの一冊短い一年」を参照のこと。

ピザまん

オンラインコミアカみたいなのをやったというのは聞いたことがあります。そのとき作った本もいま部室にあるので、後で読みたい人はぜひ。私もやりがいの話を少ししようかな。えー、ちさとしさんと一緒にですね。(一同笑い)

ちさとし

ちょうど自分が入ったころとそこから1年くらいはコミアカはすごく人が少なくて、そこから復活して2~3年目くらいで皆さんに入ってきていただいたんですけど、自分はほとんど新歓とかに顔出せなかったので、どういう流れで皆さんがコミアカに加入するに至ったのか、聞きたいと思っています。

私は大学に入ってから同人を認知して、

そこから何ステップか踏んでコミアカに入ってるの、いきなり1年生からコミアカに入る人って私にとってはニッチなんですよね。(一同笑い)

ピザまん

ここにいる人って、もしかして全員1年生からコミアカに入っていますか？

ハイラ

僕はそうですね。

ピザまん

そうですよね。私とハイラさんは一緒に、緑茶んさんも来てくれて。今年入った方々はもちろん今1年生、という感じですよね。私の場合は、コミアカを知ったのは大学に入ってからですけど、即売会自体は高校から知ってました。C99(2021/12/30~31)ですかね、コロナ明けになるのかな。

ちさとし

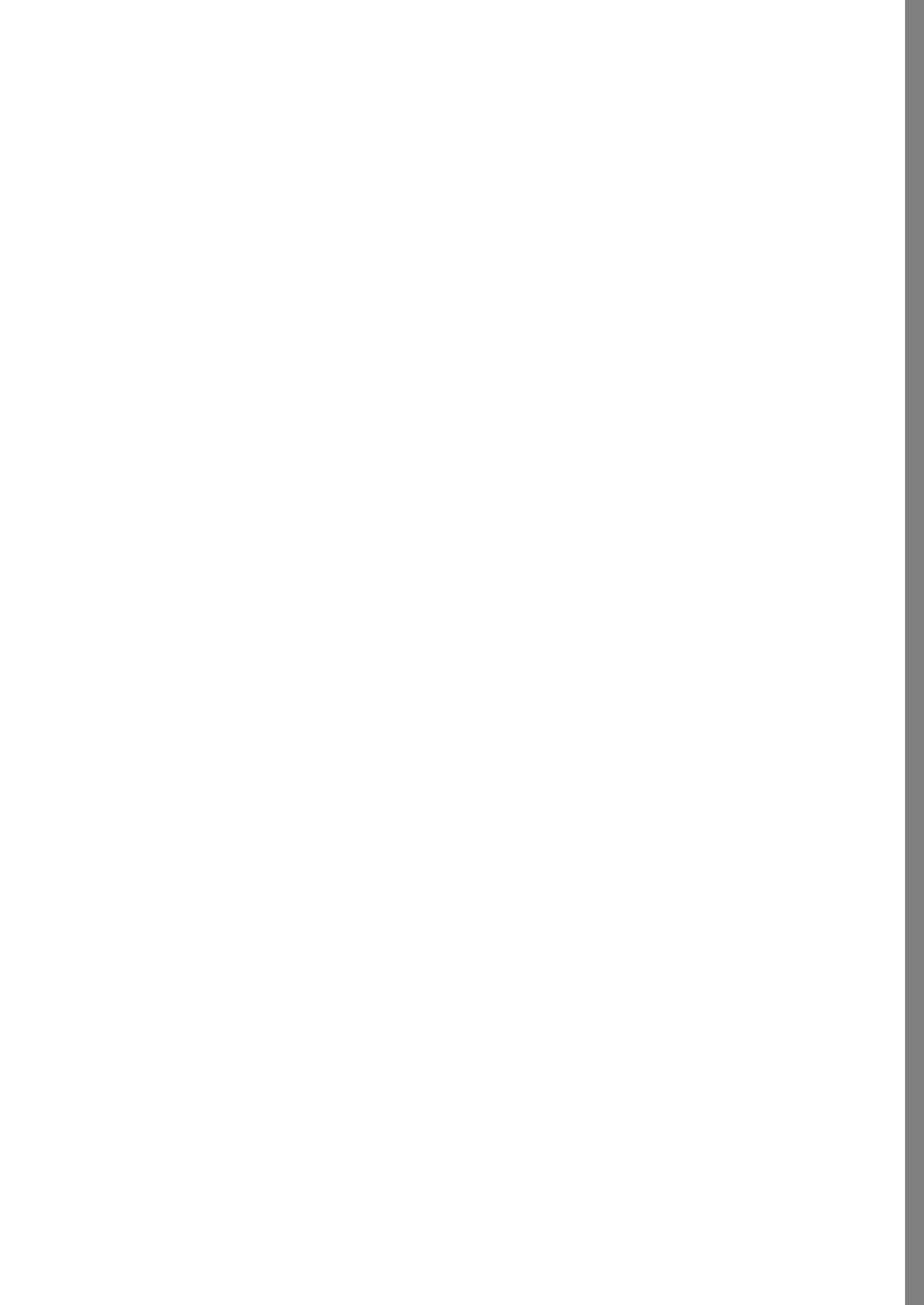
コロナが明けて最初ですね。

ピザまん

時間で全部チケットが分かれてたコミケが初コミケでした。それが高校生のときで、それ以前から即売会には興味あったんですけど、その辺から「同人の世界、面白いぞ」と思っていて……。大学に入って、立て看板でくろば・U先生(※)のイラストを見て、「何だろう？」と思って話を聞きに行ったら、即売会をやっているという話だったので、「面白そうじゃないか」と思って参加しました。決め手は何かといわれたら、イラストですね。あの新歓のイラストすごいですよね。

(※)くろば・U先生

漫画家・イラストレーター。代表作に『ステラのまほう』がある。東京大学出身で、個人サークル「前方不注意」のほか、在学中は同人ゲーム制作サークル「ノンリニア」でも活動していた。

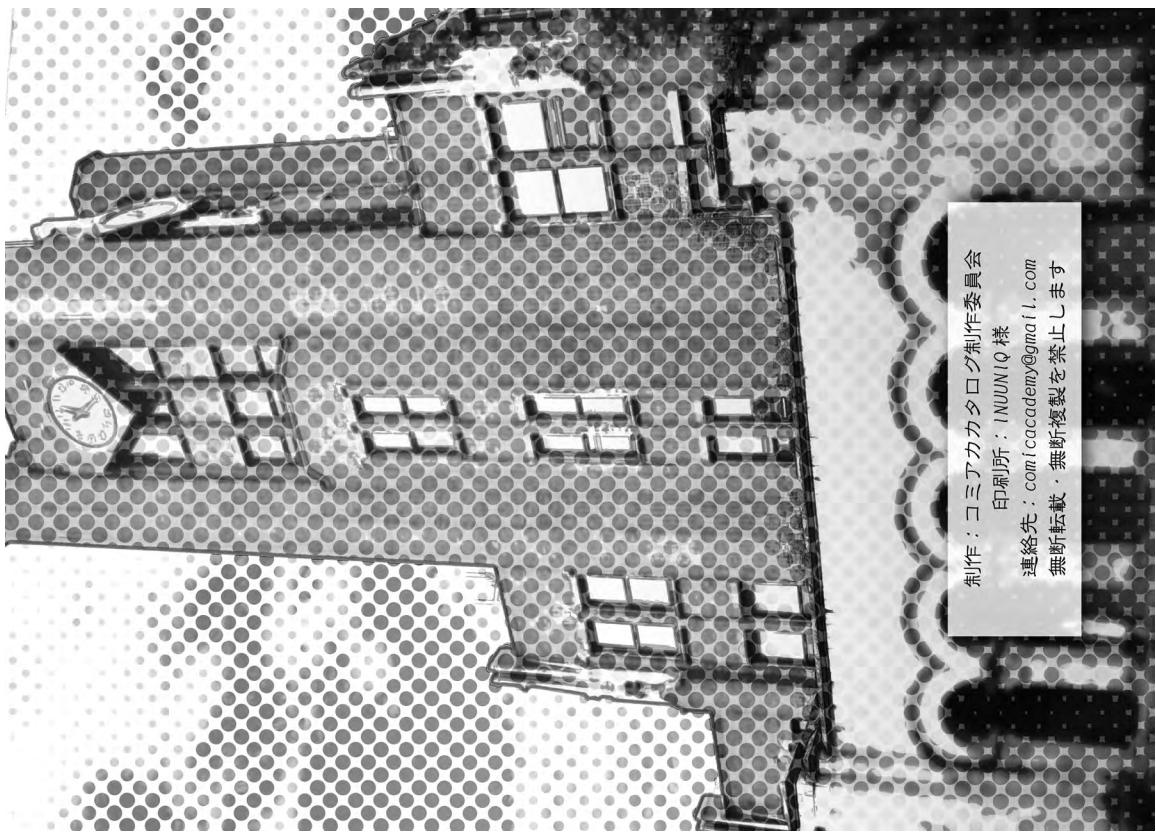


15 years of
comic academy

資料編

十五年史

コミックアカデミー01 カタログ



コミックアカデミー十五年史

令和7年11月22日 初版発行

発行者 コミックアカデミー実行委員会

印刷所 株式会社グラフィック

15周年事業 総統括

rtateshina (アレグレス - Leo/need × KAITO)

統括

芙蓉

はまとく

ぎんなんまん

ピザまん

執筆・資料提供

朝永はむ

芙蓉

かえで (再録)

流雲

桜

はまとく

49 (再録)

rtateshina

せみまる

竹麻呂

ていま

ぎんなんまん

ばっふあ (再録)

ちさとし

Ajin

ふあほん

K

ピザまん

sourmilk

校閲

ぎんなんまん

バーター

装丁

あをもみじ (青葉小路)

表紙イラスト

檜山ユキ

Email: contact@comiaca.com

Web: comiaca.com

コミックアカデミー
15周年記念事業は、
以下の方々のご支援により
実現しました。

バーター

ばっふあ

めぶ

sylph01

ぎんなんまん

朝永はむ

悪堕研究機構

nikochin

さわみる

芙蓉

Ajin

はまとく

ゲンシュン

Linspeed

流雲

rtateshina ほか4名 (順不同)

十五年史アカデミー